

はじめての博物館

大目小学校では、秋の校外学習を3年4年が一緒に行っている。4年はすでに昨年見学しているし、発達段階に合わせた見学を行いたいので、自分たちでめあてを持って見学した。

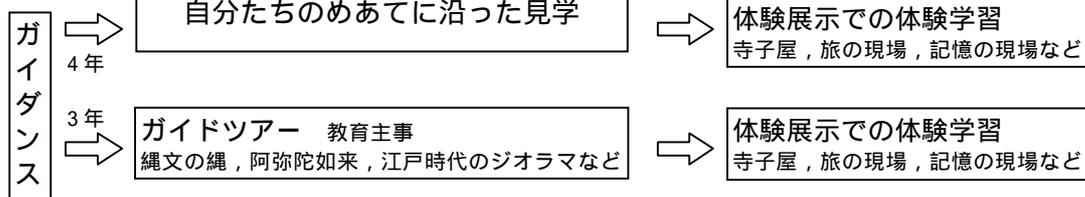
一方、3年生ははじめての博物館である。社会の教科書にも博物館で調べ学習をするページがあるがなにぶんにも初体験なので、教育主事によるガイドツアーを体験し、博物館の概要を知った。

事前

3年 博物館で展示されているものを説明し、興味あることを発表しあった。

4年 社会の「くらしを高める願い」の発展として水害史、国語の『一つの花』の理解を深めるために戦争のころの話・空襲について学ぶことを確認した。

当日の流れ



小3向けの展示資料

縄文コーナーでは、縄から聞こえる様々な説明に子どもたちが夢中になった。



3体の仏様の名前を覚えたり、同じ格好をさせてみたり、目を開いているかどうか訪ねたり、材料は何かを考えたりした。



まず、この農家が何階建てかを考え、2・3階で飼っていた昆虫は何かと尋ねた。カイコという答えが返ってきたので、カイコ幼虫の写真を見せたり、まゆを見せたりした。



巨富のコーナーは昔の甲府駅のホームをイメージした展示だが、ここにある『かふふ』という駅名をどう読むか、子どもたちに尋ねながら見学。



事後

3年 学習したことをまとめて、総合の「日本の文化」で見学の際のまとめ資料などを活用した。

4年 ワークシートを利用し、展示の模型や映像を通して深めたことを交流しあった。

一言

3年 ガイドツアーがあつてよかった。短い時間で有意義にすごせた。

4年 個別の学習になると、折り紙コーナーに集中してしまった。展示との関連があれば、なおよいと思う(トトロを折っていたので)。スタンプラリーへは一人参加していた。多様なコースがあればよいと感じた。体験では、昔の服装とコンピュータのコーナーが人気だった。ぶどう栽培とワインについては、現地で学ぶこともできるが、博物館ならではの学びができたらいと感じる。例えば、ぶどうを搾る機械を動かしてみるといった疑似体験があればよい。

(大目小学校 芦沢哲治, 山口国之)